

つながる・かしこい 農業機械の これまでとこれから

農業機械の通信制御共通化技術の開発成果と
農業生産の高度化・情報化への貢献に向けた将来展望



2014年1月30日(木)
かでの2・7 (札幌市中央区北2条西7丁目)
13:30-17:00 入場無料(参加自由)

農林水産省実用技術開発事業 成果報告会
「農業機械のシンプル化と高度化を両立する通信制御共通化技術の開発」

主催：独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター 畑作研究領域

協力：一般社団法人 日本農業機械工業会

株式会社クボタ、ヤンマー株式会社、井関農機株式会社、三菱農機株式会社、松山株式会社、小橋工業株式会社、株式会社やまびこ、株式会社IHIスター、三陽機器株式会社、東洋農機株式会社、株式会社ササキコーポレーション、株式会社タカキタ、株式会社丸山製作所、スガノ農機株式会社、地方独立行政法人 北海道立総合研究機構（十勝農業試験場、中央農業試験場、工業試験場）、独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構（中央農業総合研究センター、近畿中国四国農業研究センター）

農業機械のシンプル化と高度化を両立する 通信制御共通化技術の開発

2014年1月30日（木）13:30-17:00

場所：かでの2・7 かでのホール（札幌市中央区北2条西7丁目）

農業機械は農業生産になくてはならない重要な技術ですが、低価格化と高度化という相反するニーズを満たさなくてはなりません。電子制御化は問題を解決する技術の一つであり、高度な制御がソフトウェアで可能となるほか、トラクターと作業機の間でセンサーや作業の情報を通信・共有することで機械を簡素化することも可能な、いわば「かしこい農業機械」を実現します。

しかし一方で、トラクターと作業機間の情報通信の互換性がないと、農業者の方はトラクタと作業機をいっぺんに買い換えなくてはその恩恵を受けることはできません。「かしこい農業機械」が農業生産で本当に役に立つには、メーカーを超えて「つながる農業機械」になることが、非常に重要になります。

農研機構では産官と連携し農林水産省の事業を活用して、この「つながる・かしこい農業機械の実現」に向け数年来取り組んできました。今回の報告会ではその成果をご報告いたしますとともに、これらの技術が農業生産の高度化・情報化へどのように貢献するかといった将来展望についてもお示しいたします。

プログラム

1. 開会・挨拶

2. 基調講演

(1) 「つながる・かしこい農業機械のこれまでとこれから」

（独）農研機構 北海道農業研究センター 畑作研究領域 濱田安之

(2) 農業機械の電子化と通信制御共通化が作物生産にもたらすもの

（地独）北海道立総合研究機構 十勝農業試験場 原 圭祐

3. 農業機械の通信制御共通化に向けたこれまでの取り組みと今後の展望

(1) 株式会社クボタ

(2) ヤンマー株式会社

(3) 株式会社やまびこ

(4) 株式会社 IHI スター

(5) 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構

注) 演題、内容は変更する場合がございます。

お問い合わせ先：（独）農研機構 北海道農業研究センター 畑作研究領域

TEL 0155-62-9280 FAX 0155-61-2127

メールアドレス：yhamada@affrc.go.jp